

May, 1934.

51

caespitosis, stipite ebeneo, tereti ad pedem modice squamoso ; laminae configuratione et partitione cum *Cheilanthe* subgen. *Aleuiteridi* omnino bene congruens ; systemate vasculare ad pedem stipitis solenostelo.

Gen. *Sinopteris* CHING.

Species 2 in China incolae.

1, *Sinopteris grevilleoids* (CHRIST) CHING.

Hab. Yunnan, Szechuen.

2, *Sinopteris hopeiensis* CHING.

Hab. Hopei.

西南支那には羊齒類は 600 種以上もありて其内には支那特有屬として *Archangiopteris*, *Cheilanthopsis* 及び本屬等の珍品を包蔵してゐる。(G. KOIDZUMI)

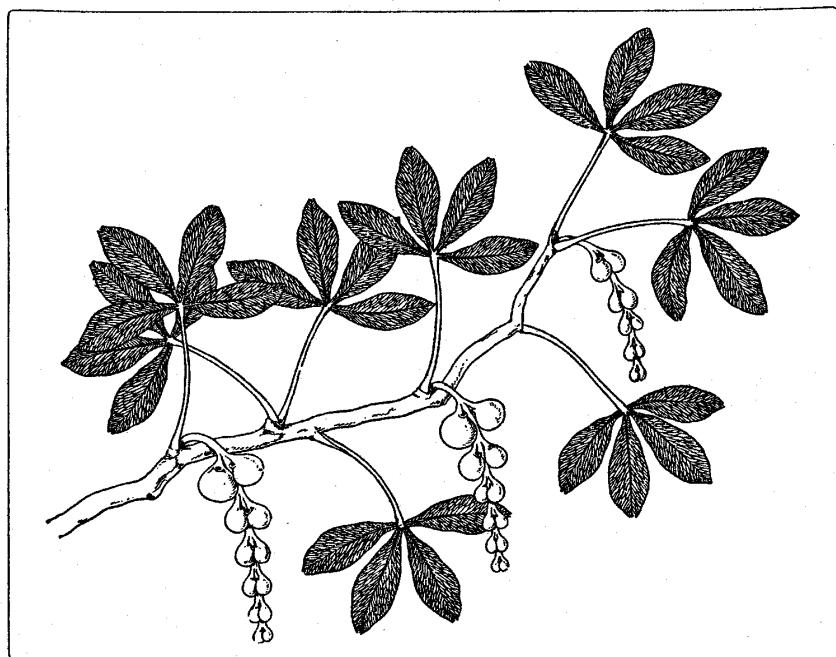
エリアス：—關節種子植物 (M. K. ELIAS :—On a Seed-bearing *Annularia*, in Bull. Univ. Kansas. vol XXXII. no. 10, 1931. pp. 115—134. t. 12—15.)

北米 Missouri州の石炭紀下部 (lower Pennsylvanian system) より *Annularia* type の植物にして、枝の中央部の leaf-whorl 二許りの葉腋に無柄の卵狀の種子が一ニケづゝ附着し、之を付けし葉は下にまがり他葉よりも細き形狀を呈せるものを發見し、佛蘭西の BRONGNIERT 氏や RENAULT 氏の豫言を實現せりと云ふ、種子は 7-7.5 mm の長さを有する卵狀體にして先端少しく突起せり、種皮には波狀の筋あり、内部の構造は不明なれども之はムカゴには非らずして種子なるべきは A. C. SEWARD 氏が Wealden の *Equisetites Burchardtii* DUNKER のムカゴに比するに全く別であるから解ると云ふ、それで氏は關節植物族 (Articulatae) の第七目として *Arthrospermales* を設け *Arthrospermaceae* 科を置き本植物を *Carpannularia americana* ELIAS n. g. & sp. と命ぜり。(G. KOIDZUMI)

ハルリス氏：—ケイトンソウ目 (T. M. HARRIS ;—A new Member of the *Caytoniales*, New Phyt. vol. 32, p. 97—114, t. 4.5, 1933 ;—The Fossil Flora of Scoresby-sound East Greenland, part. 3, 1932 *Caytoniales* and *Bennettitales*, pp. 1—133. t. 1—19.)

1925年 H. H. THOMAS 氏は Yorkshire の中部侏羅より *Proangiospermae* と見做して記載せし *Caytonia*, *Gristhorpia*, *Antholithus* の三屬及び從來知られし *Sagenopteris* な

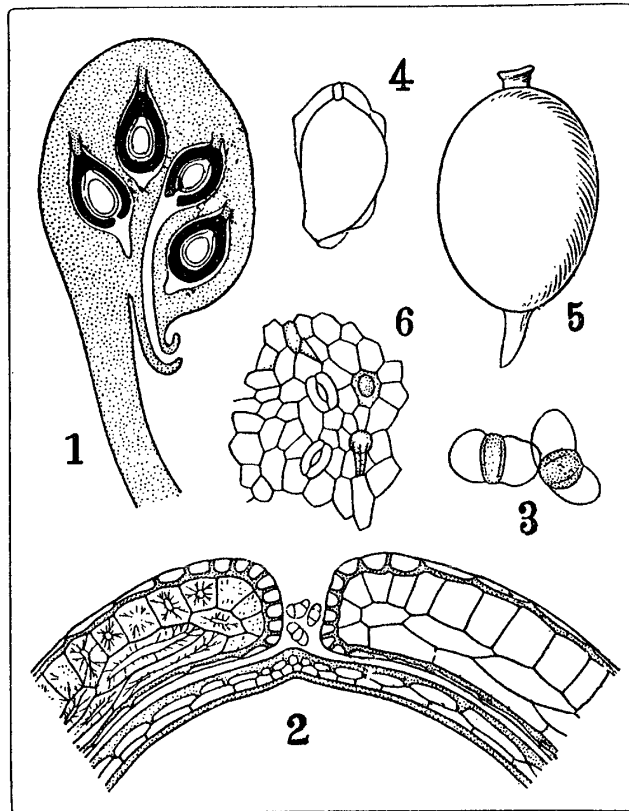
るものは夫れ夫れ全一種の個體の異なる部分を示すものに他ならずとの結論になりし事は本誌一卷258頁に記したる處なりしが其後1929年 W. N. SEWARD氏亦 Sardiniaにて *Gristhorpia* と *Sagenopteris* と共有するを發見せり、著者は東 Greenland の Scoresby Sound の侏羅最下部植物の研究にても亦同一結論に到着せり、而氏は此類の種子に *Amphorispermum* なる新屬名を命じたり。



第一圖 Caytonia (SEWARD氏ヨリ變更)

HARRIS氏の考察によれば *Caytoniales* は裸子植物の一綱 (Class IX.) を成すべき部類にして三疊 Rhaetic より白堊 Wealden まで分布するものなりと云ふ、本類の子房は子房柄に向つて反轉せる柱頭狀のものを有するが此の柱頭狀の部分は實は柱頭の性質を有するものに非ずして開口し内面には中にある種子の數程の裂孔ありて裂孔は子房内にある管溝に通じ管底に胚珠の珠孔あり、花粉は翅を有して風に飛び柱頭狀部の列溝につくや内の管溝内には或液體充滿しあるが内より分必されしものである、液の蒸發と共に花粉は管溝底に沈み遂に珠孔より入りて珠心に直接して座し此に發芽して花粉管を出すこと通常の裸子植物の如し、而花粉は決して柱頭狀部の上にて發芽し花粉管が花柱組織内を降下するものに非らずと云へり。

(G. KOIDZUMI)



- 1、雌器縦斷
- 2、珠孔内=花粉アリ
- 3、花 粉
- 4、種子ノ縦斷
- 5、種 子

第二圖 Caytouia (HARRIS氏)

雜 報

コバノテフセンエノキの分布

コバノテウセンエノキ (*Celtis Leveillei* NAKAI) は植物學雜誌 第四十七卷六一三頁に備後に産する由を記せるが、本種は唯備後どころでない、備後には諸處に産するも、東は近江國より、丹波、備中、備後、美作、長門等中國は一たいにあり、北九州は對馬島、豊前、豊後、肥前等是亦一たいに之を産布する。

コシバミバナとミヤマギンバヒ

理學博士本田正次氏が植物學雜誌四十五卷四六九頁に發表せる、コシバミバナ (*Spiraea pruniflora* HONDA) はエゾノシバミバナ (*Spiraea Fauricana* C. K. SCHN.) にして、同じく四十七卷四三七頁に發表した、ミヤマギンバヒ (*Potentilla daisenensis* HONDA) は、ノウゴイチゴ (*Fragaria inumai* MAKINO) である。

Eucommia の化石